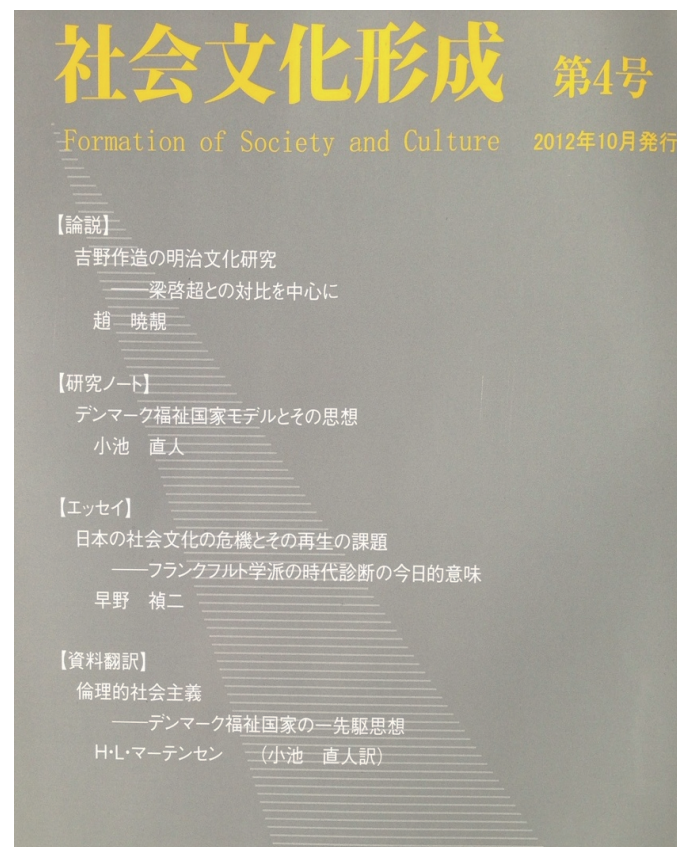


● 研究室の紹介



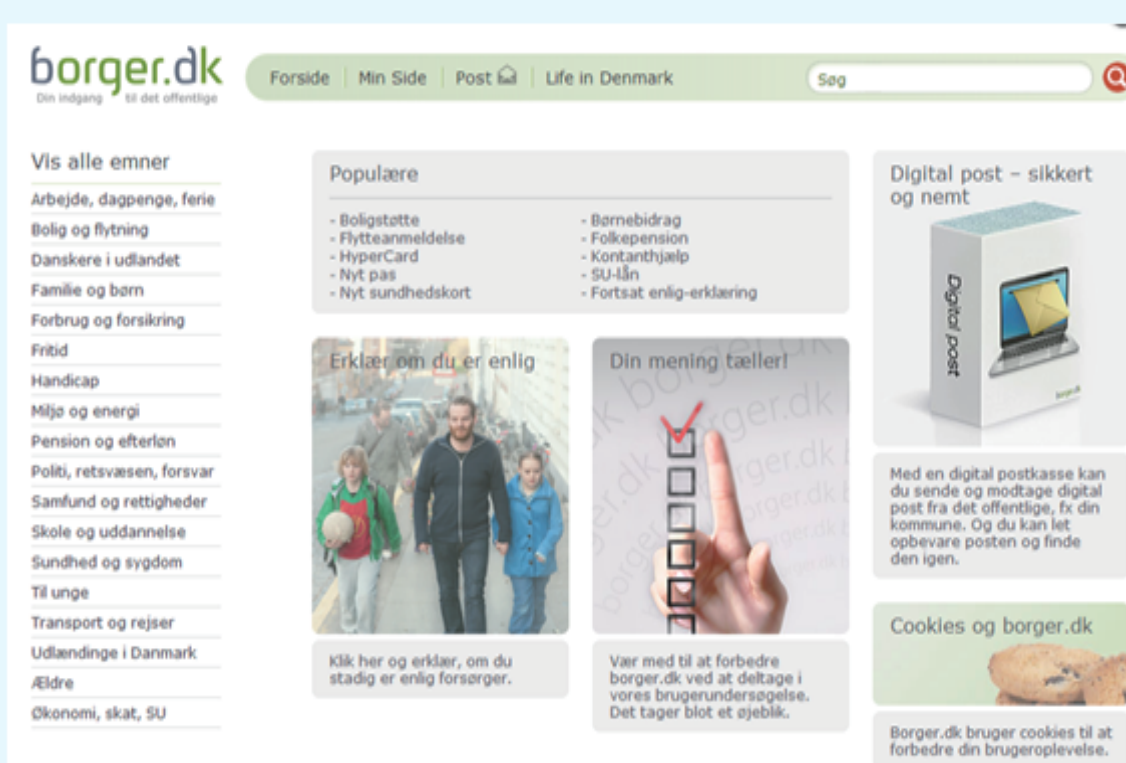
本研究室では、社会思想史及び比較文化論の視点から社会情報の一般理論や情報の生成・衝突・変容が考察されています。具体的に、北欧型社会の啓蒙・情報の存在形態、インターネット上の公共圏の再構築や日中情報化社会の相違点などの研究が行われています。なお、研究室で発行する雑誌『社会文化形成』は、情報文化や歴史形成が中心となる論文、エッセイなどを幅広く収録し、現時点で4号が刊行されています。より活発な学問的交流の場になるよう、皆さんの投稿なども心から期待しております。

社会文化形成 第4号

● 研究テーマ：三つのキーワード

情報化社会

インターネットは 1950 年代から発展している情報技術で、私たちの日常生活に大きな影響を与えています。ネット上から情報を得ることや、ビジネスを展開することはもう珍しいことではなく、市民が一つのサイトから自治体から国家にいたるまですべての公的情報や社会サービスにアクセスできる電子政府の開発まで行われています。IT 技術の進歩によって、現実社会に「情報」という環境が加われました。それは近代市民社会の自己認識として成立した社会学、社会理論、社会思想の妥当性を再検討する場だと思われます。



デンマークの市民ポータル borger.dk

電子民主主義

民主主義の基本原則に基づいて、政治的主体としての市民が、社会的諸問題について、新聞やカフェなどの手段を通じて発言し議論し世論を形成して、議会や政府の政策決定に影響を及ぼす領域 = 公共圏が近代初期に誕生しました。その後マスメディアなどが産業化し、その役割が低下してきました。このような状況で、私は H・アーレントや J・ハーバーマスの公共圏理論を参照しながら、インターネットというメディアで新たな公共圏の構築と活性化の可能性を考察したいと思います。(臧千一)



ハンナアーレント (1906-1975) ユルゲンハーバーマス (1929~)

比較社会論

比較社会思想という視点から、北欧型社会で現れてきた、利用者としての市民意思による最先端の公共性を分析します。公共性と知識社会の関係性が重要であり、北欧型知識社会の構築にあたって大きな影響力をもっているデンマークの思想家 N・F・S・グルントヴィの著作の翻訳と思想の解明にも取り組んでいます。彼は「生の啓蒙（情報）」の理論で知られ、利用者（通常の市民）の情報交換こそが公共性の形成や先端社会開発に決定的に影響を及ぼすことを主張していました。(小池直人)



世界地図 (日本、デンマーク)

● 連絡先

名古屋大学情報科学研究科 小池 直人 (625) Tel : 052-789-4840 Email : nakoike@is.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学情報科学研究科 院生研究室 (403) Tel : 052-789-3524 Email : zang.qianyi@f.mbox.nagoya-u.ac.jp